

項 目	留 意 点
<p>・現場の物理的条件 (自然条件、交通条件)</p>	<p>・「○○」とする個々の考えについて、価値観の議論と同時に、現場の客観的な物理的条件に照らした議論が必要 例：「住宅地」を選択した人が多かった。 →善し悪しの議論以前に、気象条件を考慮すれば、「恒常的な生活の場」としては不適ではないか。</p> <p>・一方で、先入観的な制約で議論の芽を摘んでしまわないようにすることにも留意が必要 例：域外からの集客を考える施設やイベントは、交通条件を考慮すれば全く無理ではないか。 →不便な条件を乗り越える魅力づくりがなされれば克服可能ではないか。</p> <p>→制約と克服のバランスを考慮 →あらゆる案への前提を念頭に置いた議論の進行</p>
<p>・現場の地理的条件 (地形)</p>	<p>・地形（やや平坦な地域と深い沢地形からなる）を前提にした制約と可能性（メリット）の両方の視点</p>
<p>・環境再生のコスト</p>	<p>・不法投棄現場というマイナスのイメージを、元の自然を取り戻すことに加えて、何らかの付加価値を与えていく（プラスに変える）視点</p> <p>・費用対効果（社会的便益を最大にする）の視点</p> <p>・原状回復事業について多額の税金を投入していることから、県民の理解が得られるような方策を求める視点</p> <p>・県財政が極めて厳しい状況にあることから合理的な方策を求める視点</p> <p>→どの視点を優先させるべきか、それ自体を議論の前提にせず、議論の展開で浮かび上がったものを拾い上げる。</p>
<p>・事業・維持管理主体</p>	<p>・誰が事業主体になるべきか、それ自体を議論の前提にせず、議論の展開で浮かび上がったものを拾い上げる。</p>
<p>・自然にかえす</p>	<p>・自然にも様々な形態が考えられる（森林、芝生、花畑など）。どのような形態が望ましいのか。</p> <p>・自然に対して、整備、維持それぞれの段階で人の関わりの有無をどう捉えるのか。また、その関わりは、周辺地域住民、県民、国民レベルに分けて捉えた場合、それぞれどのような現場の個性となって浮かび上がるのか。</p>
<p>・交流・教育・憩いの場</p>	<p>・どのような形態によって体現できるのか（ハード、ソフト両方の視点）。</p> <p>・現場以外の場の活用も含めた方策も考えられるのではないか。</p>
<p>・産業活動の場</p>	<p>・周辺地域の特性について事前整理（県職員補助）</p>
<p>・インフラ整備の場</p>	<p>・周辺地域の特性について事前整理（県職員補助）</p>
<p>・生活関連の場</p>	<p>・現場の物理的条件に照らした議論が特に必要</p>
<p>・複合型</p>	<p>・単なる足し算ではなく、それぞれの機能が相互に十分に発揮される必要があること</p>